

創立記念日 日程

- | | | |
|---|--------------------------|-------------|
| 1 | 記念講演会 | 13:00~14:30 |
| 2 | 式典会場整備 | 14:30~14:45 |
| 3 | 記念式典 | 14:45~16:05 |
| 4 | 記念祝賀会 (ホテル日航那覇グランドキャッスル) | 18:30~21:00 |
| | ※一中健児之塔奉告式 9:30~ | |

記念式典 式次第 14:45~16:05

- | | | |
|----|----------|---|
| | | 司会 山田親信 |
| 1 | 開式のことば | 副校長 前新出 |
| 2 | 校歌斉唱 | |
| 3 | 物故者慰霊黙祷 | |
| 4 | 式辞 | 校長 山入端 恵子 |
| | “ | 記念事業実行委員会会長 石川 秀雄 |
| 5 | 記念事業経過報告 | 副校長 前新出 |
| 6 | あいさつ | 県教育委員会教育長 金武 正八郎 |
| | “ | P T A会長 森田 悦雄 |
| | “ | 生徒会長 宮国 伸一朗 |
| 7 | 祝辞 | 沖縄県知事 仲井眞 弘多 |
| 8 | 感謝状贈呈 | 歴代校長 (第16代~第25代校長)
瑞泉同窓会 沖縄電力株式会社
新里 和英 (一条会・株式会社オーム電機 代表取締役) |
| 9 | 懸賞論文表彰 | 校長 山入端 恵子 |
| 10 | 目録贈呈 | 記念事業実行委員会副会長 宮城 朝義 |
| 11 | 祝電披露 | 事務長 山里 盛直 |
| 12 | 閉式のことば | 教頭 垣花 誠 |



式 辞

校 長 山入端 恵 子

本日ここに、沖縄県知事並びに県教育長はじめ、多くのご来賓のご臨席を賜りましたことに、心よりお礼を申し上げます。同時に、本校の歴史を築き、支えてくださった多くの同窓生、PTA、教育機関等、関係する皆様とともに、記念式典を盛大に挙行できますことは、本校にとって、このうえない喜びであり、職員、生徒一同感謝に堪えないところであります。

本校の前身は、今を遡ること二百十年、琉球王朝第二尚氏15代国王の尚温王が、優れた人材を育成することが国の発展につながるとの思いを込めて「海邦養秀」の扁額を掲げ、後に、王国の最高学府「国学」となる公学校を本校の敷地に創建したことが起こりであります。以来、今日まで、尚温王の掲げた「海邦養秀」の理念は本校の根幹を成すものとして、脈々と受け継がれてまいりました。

明治13年12月9日、廃藩置県に伴い、国学は首里中学校と改称され、本県高等教育の端緒を開くことになりました。その後、沖縄県尋常中学校、沖縄県中学校、沖縄県立第一中学校として、県内の誰もが憧れる栄光の時代を築くことになります。第二次大戦後は首里高等学校として、時代の流れとともに幾多の変遷を経ながら、本日、百三十周年を迎えることができました。現在、本校は、1,300余名の生徒が「海邦養秀」の理念のもと、質の高い「文武両道」を実践し、県内一の伝統校、進学校としての地位を確固なものにしています。

しかしながら、長い月日の流れの中では、時代に翻弄された悲しい歴史もあります。去る大戦におきまして、県立第一中学校の学徒は、志半ばで戦場に駆り出され、藤野憲夫校長ほか生徒・職員200余名が犠牲となりました。その御霊は一中健児の塔に祀られ、毎年6月23日には慰霊祭を執り行い、ご冥福をお祈りし、平和への誓いを新たにしています。

生徒の皆さん、学校の伝統や校風というものは、ただ受け継ぐばかりではなく、また過去の思い出とするだけでもありません。生徒の皆さんが学ぶ意欲を持つことで自分自身を磨き、学友とともに努力することによってその価値が発揮されるものです。近年、社会情勢や教育環境が目まぐるしく変化しています。皆さんは、社会の変化に柔軟に対応し、新しい社会の創造を担うことのできる人になってもらいたいと願っています。新しい歴史は皆さんが作り上げるものです。校歌にも謳われている「我らがつとめ」を果たそうではありませんか。

結びになりますが、同窓会、PTA、学校の三者が実行委員会を組織し、本校教育の充実・発展のために、諸事業を推進してまいりました。ご協力いただきました関係各位に深く感謝を申し上げます。本校は、本日の輝かしい記念日を迎え、あらためて尚温王が掲げた「海邦養秀」の原点に立ち戻るとともに、今日の日をさらなる出発点として、皆様のご期待に応えるべく、学校づくりに邁進することを誓い、今後とも一層のご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



式 辞

国学創建二百十年

沖縄県立第一中学校・首里高等学校
創立百三十周年記念事業実行委員会

会 長 石 川 秀 雄

県下一の栄えある歴史と伝統を誇る首里高等学校は、本日、創立百三十周年という輝かしい記念すべき日を迎えました。沖縄県知事をはじめご来賓のご臨席のもと生徒・教職員・PTA・同窓会多数の皆様のご列席をいただき、かくも盛大に式典が挙行されますことはまことに慶賀の至りに存じます。

県立一中、首里高等学校を貫く「海邦養秀」の建学の精神は、尚温王創設の「国学」の時代から連綿と今日まで受け継がれてまいりました。その間、三万八千余の卒業生を世に送り出し、多彩かつ有能な人材は県内外そして海外へ雄飛し、様々な分野で活躍し社会貢献しておられます。このことは、私たちが誇りとし喜びとするところであります。

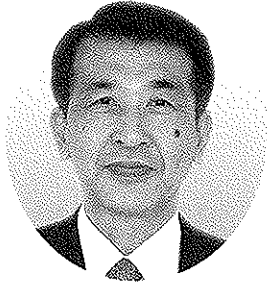
しかしながら、去る第二次大戦において、多数の生徒、教職員、同窓生が戦場にかり出され犠牲となり、校舎も戦禍で灰燼に帰したことは痛恨の極みであり、今日の平和と繁栄をもたらした過程の中に尊い犠牲と教訓があることを決して忘れてはならないのであります。謹んで哀悼の意を表する次第であります。

創立百三十周年にあたり、学校・PTA・養秀同窓会の三者が結束し、先人たちの遺徳を偲び、本校の礎を築いた関係各位に敬意を表するとともに本校のさらなる発展を期するため、「国学創建二百十年、沖縄県立第一中学校・沖縄県立首里高等学校創立百三十周年記念事業実行委員会」を組織し、それを軸に今回の周年事業を推進してまいりました。

10年の節目ごとに盛大にとりくまれてまいりました過去の周年事業の経緯をかえりみますと、八十周年には石嶺球場の土地購入と球場建設、九十周年には体育館の建設、百周年には校舎改築・運動場整備や養秀会館の建設等、主にハード面の充実のためにご尽力をいただきました。今回の百三十周年記念事業ではそれらの積み重ねに立って、「海邦養秀」の精神を具現化すべく、次代を担う人材育成が肝要であるという観点から、国内外の上級学校へ進学する本校卒業生を支援するための「養秀育英奨学金」制度を創設しました。また、記念講演会の実施、記念誌の発行をはじめ、生徒の教育活動支援を念頭に主にソフト面の充実として吹奏楽楽器やトレーニングマシンの購入等の事業を計画し推進してまいりました。これらの事業を実施するにあたり、記念事業の趣旨に賛同いただき物心両面からご協力を賜りました会員をはじめ企業の皆様、関係各位に対し、心からお礼と感謝を申し上げます。

百三十周年を契機として、本校が未来に向けてさらに校運の隆昌を期し、「海邦養秀」の建学の精神を継承発展させ、新たな歴史を創造し、光彩を加えられることを祈念してやみません。

本日の式典にご出席のうえ華を添えてくださいました皆様に謹んで敬意と謝意を表して式辞といたします。



あいさつ

沖縄県教育委員会

教育長 金 武 正八郎

沖縄県立第一中学校・首里高等学校が創立百三十周年を迎えるにあたり、お祝いを申し上げます。

本校は、明治13年12月9日、首里中学校として創設され、明治44年に沖縄県立第一中学校と改称し、昭和21年に首里高等学校として設立され、明治、大正、昭和、平成の4代にわたり、百三十年の永きに亘る誉れ高い歴史と伝統を積み上げて参りました。

幾多の変遷を経て、年々充実発展し、名実ともに本県を代表する名門校として輝かしい伝統を築き上げてきております。また、この間、多くの優れた人材を輩出し、県内外の政治・経済・文化・教育の各界において責任ある立場で御活躍しておられることは、周知のとおりであり、誠に御同慶にたえません。

百三十年周年を迎えるにあたり、本校発展のために御尽力くださいました歴代校長をはじめ、教職員、同窓生、保護者並びに地域の皆さまに、改めて衷心より敬意と謝意を表する次第でございます。

さて、本校は国学創建以来の理念である「海邦養秀」の精神のもと、自主・明朗な校風と文武両道をモットーに「人格の完成を目指し、自主的・民主的な人間の育成に努め、生徒一人一人の適性・能力を開発・伸長し、豊かな品性と逞しい実践力を育成する」教育活動を推進してきております。その代表的な実績には、本県初の甲子園出場やその初勝利、また全国弁論大会で4年連続1位受賞の快挙などがあります。

創立百三十周年を迎えるにあたり、在校生諸君には、今一度荘重で気高い本校の歴史と伝統を顧み、その偉大な足跡に学ぶとともに、「海邦養秀」の精神を継承し、さらに発展させるよう不断に精進することを期待します。

21世紀は新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」といわれております。そのような時代にあって、「進取の船に棹さして たゆまず進めわが友よ 理想の岸は遠からじ」とあるように、取り巻く環境が変化する中でも、みずから進んで物事に取り組み、強い友情の絆のもと、首里高等学校の生徒としての誇りを持ち、自己実現のための英知と心身の錬磨に精励されることを切望します。

終わりに、本校創立百三十周年に際し、物心両面から御助力くださいました関係各位に対し心から感謝申し上げ、本校の限りない発展を祈念いたしまして、祝辞といたします。



あいさつ

PTA会長 森田悦雄

王府の膝元、この首里の学び舎から多くの逸材が輩出され、今もその伝統が脈々と受け継がれ今年で130年という歳月が積み重ねられました。奇しくもその節目の祝いに皆様とその喜びを分かち合える幸せをいただけることに感謝いたします。在校生1,300名余りの保護者を代表してごあいさつ申し上げます。

130年という厚い歴史の中で、多くの卒業生と先生方に育まれた一中・首里高の伝統。今回の記念行事の準備を進める中で、多くの愉快・豪快な同窓生の皆様と接する機会をいただき、あらためて首里の伝統に触れる事ができました。先輩方の熱い話や残された貴重な資料から、その伝統の深さも知ることができました。同窓生の母校に対する並々ならぬ愛情の強さももちろんのことながら、一番感じ入ったことは、かわいい後輩たちのために物心両面から何とか支えていきたいという先輩方の熱い思いです。

籠の鳥であった中学までとは異なり、高校生は小人ではないが、されども大人でもない中途半端な存在であり、社会へ出る見習い生であります。その貴重な時を首里で過ごし、様々な挑戦と喜び、そして幾度の失敗と悲しみ、一生の付き合いとなる友や先輩、恩師との出会い。それらが全て、血や肉となってパーツの一つ一つとなり組み込まれ、成長していく首里での日々。そんなパーツの中でも、もっとも重要な部分が『首里の生徒。首里の卒業生という誇り』ではないでしょうか。

選抜試験を勝ち抜き、この名門首里の門をくぐったわが子は、自慢の息子・娘でありましょう。誇りに思うわが子よ。先輩方が築いてきた首里の伝統をしっかりと受け継ぎ、在学中にいただいた先生の恩を忘れず、これから来る後輩に力強くさらに大きなバトンを繋いで行ってください。

親としても、これから社会へ出て行く君たちをしっかりと後押しして行きましょう。親の思いばかりではなく、先輩方の熱い思いや先生方の寄せる思いもしっかりと感じながら、天から授かった我が子が社会の中で自立していけるように導いていきましょう。

首里高PTAは、これからも変わることない伝統を引き継ぐ首里の現役生を支えながら、先生方や養秀同窓会の皆様方と共に本校のさらなる発展に尽力していきたいと思えます。



あいさつ

生徒会長 宮 国 伸一郎

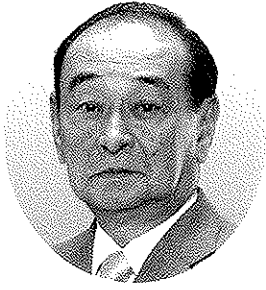
2010年、私達の首里高等学校は創立百三十周年を迎えます。尚温王の「国学」開学からは210年の歴史の節目ということも知り、そのような年にこの首里高校で学べたことを幸せに思います。私達首里高生は開学精神である「海邦養秀」の言葉を、折に触れ先生方や先輩方に教えられてきました。海に囲まれたこの国から優秀な人材を育てたいという理念を持って学校を創設し、そして、その教えがずっと引き継がれてきたことを入学以来、何度か聞かされました。過去、現在、未来へとつながる首里高校の歴史の中に、今私達がいることも喜びであり、同時に身が引き締まる思いがします。

今年は全国高校総体「美ら島総体」がこの沖縄の地で開催された年でもあります。空手道部となぎなた部、フェンシング部が出場し活躍しました。そして、総合開会式では、2学年全員が南風原高校と合同で琉舞・エイサーを披露し、沖縄の芸能を全国にアピールする機会にも恵まれました。また、首里高での部活動や学校行事で学んだことを活かし、たくさんの生徒が大会運営補助員として「美ら島総体」に参加しました。

このように、創立以来受け継がれてきた「文武両道」をスローガンに、勉学、部活動、学校行事どれも全力で取り組んでいます。運動系の部活、文化系の部活ともに活発で、「震天動地」の旗を掲げ仲間と共に日々練習に励んでいます。毎年秋には那覇高校とのスポーツ交流会が実施されています。一中対二中の対決です。那覇高校は互いに切磋琢磨しあう良きライバルです。今年、俳句部は俳句甲子園に出場し、全国準優勝に輝き首里高の名を広めました。数々の学校行事では生徒会を中心に、生徒が企画し実践し自ら楽しむ工夫をしています。今年は首里フェスの年で「百三十周年だよ！全員集合！」のテーマのもと、5つの団を形成し、学年の壁を越え、生徒と職員一体となり、大いに盛り上がり感動を分かち合うことができました。このように、先輩方が築いてきた、元気な首里高校はまだまだ健在です。

しかし、創立から現在に至るまでには、厳しい社会情勢の中で困難な時期もありました。戦時中、県立一中の多くの生徒が学徒兵として戦場に行き、大切な青春時代に学校生活も送れず、学校施設も戦災に遇い、中には若い尊い命を失ったりしたことなどが悲しい歴史として記されています。毎年六月には一中健児の塔の前で慰霊祭が行われます。私達後輩は、学校生活が送れることを幸せに思い、平和を継承しながら日々学んでいきたいと思っています。

沖縄をリードする偉大な先輩方が多いため、時には、「首里高生らしくしろ」とか「首里高生としての誇りをもて」と叱咤激励され、多少のプレッシャーを感じることもありますが、歴史と伝統の重さだと受け止め、誇れる首里高校を作る励みにします。現在、私を始め、ほとんどの在校生が充実した楽しい首里高ライフを送っています。これからも協力しあって、変わらない首里高の良さに新しい首里高の良さを加えて、百三十一年、百三十二年と歴史を刻んでいきたいと思えます。



祝 辞

沖縄県知事 仲井眞 弘 多

沖縄県立第一中学校・首里高等学校創立百三十周年記念式典が挙行されるにあたり、お祝いのごあいさつを申し上げます。

本校は、尚温王が創設した国学を前身として、明治13年12月9日首里中学校として創立され、幾多の変遷を経て、現在にいたっております。以来、本県発展に多大な業績をしるし、百三十年の輝かしい歴史を築き上げてまいりました。

国学創建の理念である「海邦養秀」の精神のもと、多くの優れた人材を輩出し、県内外の様々な分野において、その中心となって活躍しておられます。

この輝かしい歴史と伝統は、草創期から御苦労された方々によって築かれたものであります。ここに、多くの苦難を克服してこられた歴代の校長をはじめ、教職員、同窓会、PTA並びに関係者の皆様に対し、心から感謝申し上げます。


さて、県としましては、人口減少・少子化が進行する昨今の社会情勢の中で、若い世代の育成は沖縄の将来の発展にとって極めて重要であると認識しており、今後とも、その基礎・基盤となる学校教育の充実に取り組んでいく方針であります。

本校におかれましては、今後とも社会の求める幅広い優秀な人材の育成校としての使命を担って、羽ばたいていただきますよう御期待申し上げます。

終わりに、この記念すべき百三十周年が新たな出発点となり、生徒の皆様の更なる活躍と本校の限りない発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

創立記念 事業計画

1 記念行事

- (1) 創立百三十周年記念 沖縄セルラースタジアム那覇落成記念 首里高校・那覇高校野球特別 試合
沖縄セルラースタジアム那覇 平成 22 年 4 月 11 日(日)
- (2) 創立百三十周年記念「首里フェス in 2010」 本校グラウンド 平成 22 年 9 月 11 日(土)
テーマ：「燃えろ！130 魂！健児のキセキ 今ここに！」
- (3) 創立百三十周年記念校内弁論大会 平成 22 年 7 月 16 日(金)
- (4) 記念講演会
本校体育館 平成 22 年 12 月 9 日(木) 13 時～
講師：秋山 仁 氏（あきやまじん 1946 年生まれ 東京都出身）
数学者、理学博士、東海大学教育開発研究所所長
専攻：グラフ理論、離散幾何学
演題：「ある舟は東へ進み、他の舟は同じ風で西へ進む」
- (5) 首里高校創立百三十周年、那覇高校創立百周年記念第 11 回首里高校・那覇高校対抗野球大会
及び対抗スポーツ大会 平成 22 年 11 月 14 日(日)
- (6) 記念式典
本校体育館 平成 22 年 12 月 9 日(木) 14 時 30 分～
- (7) 記念祝賀会
ホテル日航那覇グランドキャッスル 平成 22 年 12 月 9 日(木) 18 時 30 分～
- (8) 創立百三十周年記念 合唱部 第 45 回定期演奏会、吹奏楽部 第 46 回定期演奏会開催予定
平成 23 年 3 月下旬

2 人材育成・教育活動等支援推進事業

- (1) 養秀奨学基金創設（毎年 5 名に貸与）
県外 3 名、県内 2 名
- (2) 懸賞論文の募集（「首里高校にもの申す～首里高校の未来を考える～」）
- (3) 校歌、応援歌収録 CD の作成
- (4) 吹奏楽部楽器購入他体育備品等の充実
- (5) 石嶺球場の整備
- (6) 「目で見る養秀百三十年」（記念誌）の発行 平成 22 年 12 月 9 日(木)
- (7) 「養秀そうし」の発行 平成 22 年 12 月 9 日(木)
- (8) 養秀資料室の設置
- (9) 「海邦養秀」スクールバッグ制作・配布 平成 22 年 12 月 9 日(木)
- (10) 可動式組み立てパネルの購入

3 資金造成事業

- ・創立百三十周年記念ボトル作成
- ・創立百三十周年記念タオル販売
- ・創立百三十周年記念ボウリングチケット販売
- ・創立百三十周年記念ゴルフコンペ開催

祝 賀 会

《プログラム》

18：30～ ホテル日航那覇グランドキャッスル首里の間

司 会 安谷屋 真理子 (同窓生)

- | | | | |
|----|--------|-----------------|----------|
| 1 | 開会のことば | 実行委員会副会長 | 田 場 稔 |
| 2 | 校歌斉唱 | | |
| 3 | 古典舞踊 | 啓扇本流 船乃会 家元 | 船 越 節 子 |
| 4 | あいさつ | 実行委員会会長・養秀同窓会会長 | 石 川 秀 雄 |
| 5 | 祝 辞 | 沖縄県教育委員会委員長 | 比 嘉 梨 香 |
| | | 元県教育長・学校評議員 | 津 留 健 二 |
| 6 | 記念演奏 | 吹奏楽部・OB 指揮 | 山 元 正 造 |
| 7 | 乾 杯 | 元副知事 | 尚 弘 子 |
| 8 | 歓 談 | | |
| 9 | あいさつ | 校 長 | 山入端 恵 子 |
| 10 | あいさつ | P T A会長 | 森 田 悦 雄 |
| 11 | 余 興 | | P T A関係者 |
| 12 | 応 援 歌 | | 高 良 正 次 |
| 13 | 万歳三唱 | | 吉 田 朝 啓 |
| 14 | 閉会のことば | P T A副会長 | 大 胡 弥 生 |